

学生の学修実態調査から捉えた課題と今後の学修支援

金山 時恵¹⁾*・杉本 幸枝¹⁾・磯本 暁子¹⁾・渡部 昌史²⁾・松本 百合美³⁾

山本 里香⁴⁾・吉田 征弘⁴⁾・若本 美津子⁴⁾

1) 新見公立大学看護学部 2) 新見公立短期大学幼児教育学科
3) 新見公立短期大学地域福祉学科 4) 新見公立大学学務課

(2016年11月30日受理)

本調査は、学生の授業時間外の予習・復習にどの程度の時間を割いて取り組んでいるのかについての学修状況の現状と課題から、今後の学修支援について検討することを目的とした。その結果、科目の予習・復習は課題が出たときのみであり、平日・休日ともに時間外の予習・復習時間は30分未満、あるいは全くしない状況が明らかになった。自己学修では講義のみであり、学生は今の状況は不十分な学修状況であることは認識している。今後はこれまで以上に、学生個々に応じた履修指導を丁寧に行うとともに、学修環境の整備を図ることが求められる。

(キーワード) 学生, 学修実態, 学修支援

はじめに

文部科学省の省令で定められている大学設置基準では、学生が予習・復習に相当の時間をかけることを前提に到達目標を定めて授業を行うように規定されている¹⁾。第21条には、各授業科目の単位数は、大学において定めるものとする²⁾とされ、単位数は1単位の授業科目を45時間に学修を必要とする内容をもって構成することを標準とし、授業の方法に応じ当該授業による教育効果、授業時間外に必要な学修などを考慮して単位数を計算するものとする³⁾とある。たとえば、半期15回の通常授業は2単位となり、90時間の学習を予習・授業・復習を「必要」とすることを標準的な前提とされる。これについてはさまざまな解釈がみられるが、例として、1コマ90分、15回の通常授業では22.5時間の学習となり、1.5コマ分の予習、1.5コマ分の復習を要することとされる。これは、授業を受ける学生にとっては授業時間外の予習・復習時間を割くことが義務付けられていることを意味している。実際に、どのくらいの時間を予習・復習にかかる時間は授業内容によって変わる。予習は次の回の授業内容を一通りこなし、理解できないところを洗い出せるまで行うこと、復習は授業でわからなかったところを理解できるようにし忘れないようにすることなどが目安とされている。

本学における、近年の学生の傾向は、再試験後も単位を未修得とし再履修の科目を抱える学生が年々増えていることである。教務委員会では各学年に対して前期と後期の最初に履修ガイダンスを実施し、学生便覧を用いて学修全

般に関する説明を行っている。また、再履修の必要な学生には担任、教務委員との個別面談を行いつつ履修指導を実施している。このような状況から、学生は授業時間外の予習・復習にどの程度の時間を割いて取り組んでいるのかについて把握する必要性を認識している。そして、適切な学修時間の確保と学修方法の提示をすることが必要と思われる。

そこで、本報告では、教務委員会が主体となり実施した、学生の学修実態調査から学修状況の現状と課題を明らかにし、今後の学修支援について検討することを目的とする。

1. 研究方法

1. 調査対象

新見公立大学看護学部看護学科1年～4年256人

新見公立短期大学幼児教育学科1年・2年112人、地域福祉学科1年・2年89人

2. 調査方法

無記名自記式質問紙調査。教務委員会が作成した調査票を各学科の教務委員が、授業時間外あるいは科目時間内の時間を使用して配布しその場で回収を行った。

3. 調査期間

2015年11月1日～11月8日

*連絡先: 金山時恵 新見公立大学看護学部 718-8585 新見市西方1263-2

4. 分析方法

統計処理ソフトSPSS18.0 J for Windowsを用いて、単純集計、クロス集計を行い、検定は χ^2 検定を行い、5%水準をもって有意差ありとした。

5. 倫理的配慮

学生には、研究の目的、方法、研究の匿名性、研究協力は自由意思によるものとし、成績評価には一切影響しないこと、研究協力をしないことで不利益を受けることがないことを口頭と文書で説明した。提出をもって研究協力が得られたものとした。

II. 結果

配布数457部、回収数382部（83.6%）、有効回答数382部（83.6%）であった。

1. 基本属性（表1）

1) 所属学科

看護学科197人（51.6%）、幼児教育学科105人（27.5%）、地域福祉学科80人（20.9%）であった。

2) 学年

1年次144人（37.7%）、2年次146人（38.2%）、3年次37人（9.7%）、4年次55人（14.4%）であった。

3) 性別

男性46人（12.0%）、女性336人（88.0%）であった。
看護学科男性26人、女性171人、幼児教育学科男性3人、女性102人、地域福祉学科男性17人、女性63人であった。

4) 現在の住まい

アパート332人（86.9%）、自宅50人（13.1%）であった。

5) 通学時間（片道）

15分以内が292人（76.4%）と最も多く、次いで30分以

内が62人（16.2%）、90分以上が21人（5.5%）、60分以内が7人（1.8%）であった。

2. 入学選抜方法

推薦が119人（31.2%）と最も多く、次いで一般前期が106人（27.7%）、一般入試が64人（16.8%）、指定校推薦が51人（13.4%）、一般後期が34人（8.9%）であった。

3. 授業時間外の学修時間

1) 科目の予習・復習

課題が出たときが255人（66.8%）と最も多く、次いで何もしていないが34人（8.9%）、分からない科目が29人（7.6%）、興味のある科目、教員に促される科目が各々27人（7.1%）であった（図1）。

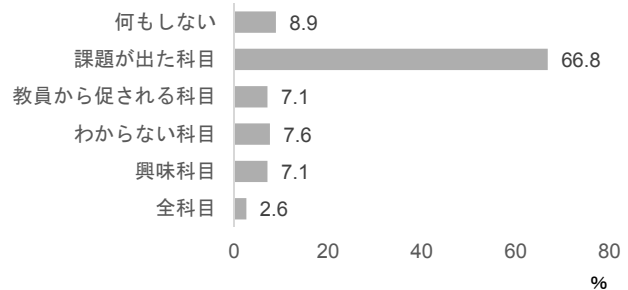


図1 授業時間外における科目の予習・復習

2) シラバスの利用状況

気になったときに時々確認するが190人（49.7%）と最も多く、次いで初回の授業を受ける前に確認したが、その後はほとんど見ていないが112人（29.3%）、授業選択を考えるとときに確認したが、その後はほとんど見ていないが61人（4.7%）であった（図2）。

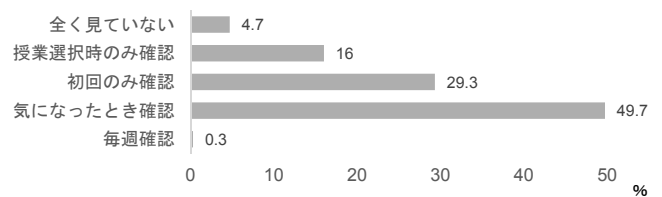


図2 シラバスの利用状況

3) 平日と休日の睡眠時間

平日（n=382）では、6時間以上9時間未満が254人（66.5%）と最も多く、次いで5時間以内が104人（27.2%）、4時間以内が21人（5.5%）、3時間以内が3人（0.8%）であった。

休日（n=378）では、6時間以上9時間以内が322人（85.2%）と最も多く、次いで5時間以内が35人（9.3%）で

表1 基本属性(n=382)

項目	副項目	人数	%
所属学科	看護学科	197	51.6
	幼児教育学科	105	27.5
	地域福祉学科	80	20.9
学年	1年次	144	37.7
	2年次	146	38.2
	3年次	37	9.7
	4年次	55	14.4
性別	男性	46	12.0
	女性	336	88.0
現在の住まい	アパート	332	86.9
	自宅	50	13.1

あった。

4) 平日と休日の趣味や娯楽に費やす時間

平日 (n=380) では、2時間以内が137人 (36.1%) と最も多く、次いで3時間以内が78人 (20.5%)、1時間以内が71人 (18.7%)、30分未満が35人 (9.2%) であった。

休日 (n=381) では、3時間以内が84人 (22.0%) と最も多く、次いで4時間以内が70人 (18.4%)、5時間以内が67人 (17.6%)、6時間以上9時間未満が64人 (16.8%) であった。

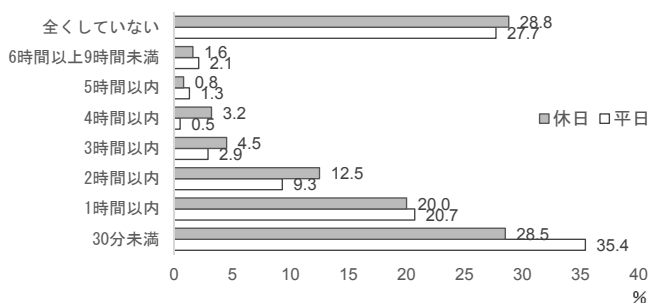


図4 授業時間外の復習時間

5) 平日と休日の大学内での授業時間以外の滞在時間

平日 (n=380) では、1時間以内が114人 (30.0%) と最も多く、次いで2時間以内が83人 (21.8%)、30分以内が76人 (20.0%)、6時間以上9時間以内が39人 (10.3%) であった。

休日 (n=377) では、滞在しないが207人 (54.9%) と最も多く、次いで30分未満が86人 (22.8%)、6時間以上9時間未満が24人 (6.4%) であった。

8) 平日と休日の実習期間前の学修時間

平日 (n=371) では、2時間以内が90人 (24.3%) と最も多く、次いで3時間以内が76人 (20.5%)、1時間以内が71人 (19.1%)、30分以内が48人 (12.9%) であった。

休日 (n=369) では、3時間以内が73人 (19.8%) と最も多く、次いで2時間以内が58人 (15.7%)、1時間以内が53人 (14.4%)、30分未満が44人 (11.9%) であった (図5)。

平日、休日ともに学科による有意差がみられた。

6) 平日と休日の授業時間外の予習時間

平日 (n=378) では、30分未満が136人 (36.0%) と最も多く、次いで全くしていないが112人 (29.6%)、1時間以内が91人 (24.1%)、2時間以内が27人 (7.1%) であった。休日 (n=379) では、全くしていないが124人 (32.7%) と最も多く、次いで30分未満が102人 (26.9%)、1時間以内が84人 (22.2%)、2時間以内が45人 (11.9%) であった (図3)。

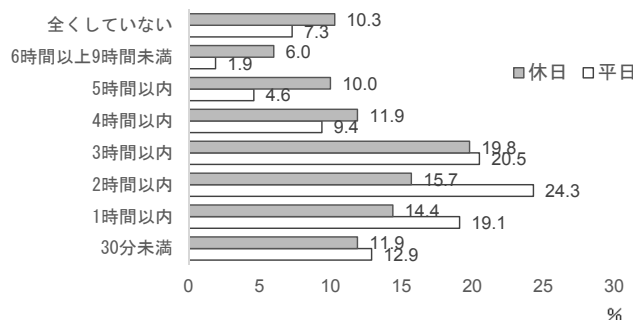


図5 実習期間前の学習時間

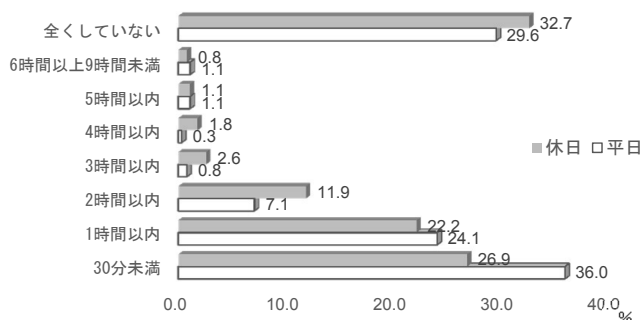


図3 授業時間外の予習時間

7) 平日と休日の授業時間外の復習時間

平日 (n=376) では、30分未満が133人 (35.4%) と最も多く、次いで全くしていないが104人 (27.7%)、1時間以内が78人 (20.7%)、2時間以内が35人 (9.3%) であった。休日 (n=375) では、全くしていないが108人 (28.8%) と最も多く、次いで30分以内が107人 (28.5%)、1時間以内が75人 (20.0%)、2時間以内が47人 (12.5%) であった (図4)。

9) 平日と休日の実習期間中の学修時間

平日 (n=365) では、3時間以内が73人 (20.0%) と最も多く、次いで4時間以内が57人 (15.6%)、30分未満が45人 (12.3%)、5時間以内が40人 (11.0%) であった。

休日 (n=366) では、3時間以内が64人 (17.5%) と最も多く、次いで4時間以内と5時間以内が各々51人 (13.9%)、2時間以内が44人 (12.0%) であった (図6)。

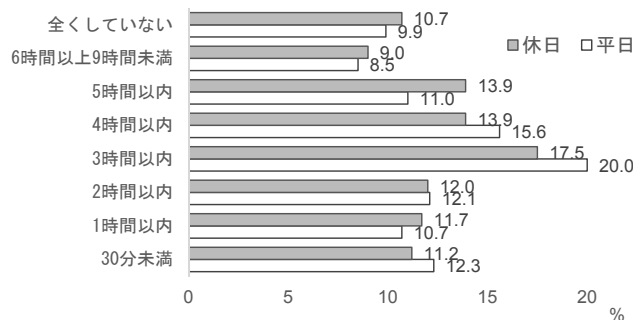


図6 実習期間中の学修時間

10) 平日と休日の課外活動に費やす時間

平日 (n=267) では、全くしていないが96人 (36.0%) と最も多く、次いで2時間以内が73人 (27.3%)、30分未満が42人 (15.7%)、1時間以内が35人 (13.1%) であった。休日 (n=264) では、全くしていないが132人 (50.0%) と最も多く、次いで30分未満が43人 (16.3%)、3時間以内が26人 (9.8%) であった。

11) 平日と休日のアルバイトの就労時間

平日 (n=291) では、5時間以内が69人 (23.7%) と最も多く、次いで4時間以内が66人 (22.7%)、3時間以内が27人 (9.3%) であった。

休日 (n=288) では、6時間以上9時間未満が99人 (34.4%) と最も多く、次いで5時間以内が80人 (27.8%)、4時間以内が47人 (16.3%) であった (図7)。

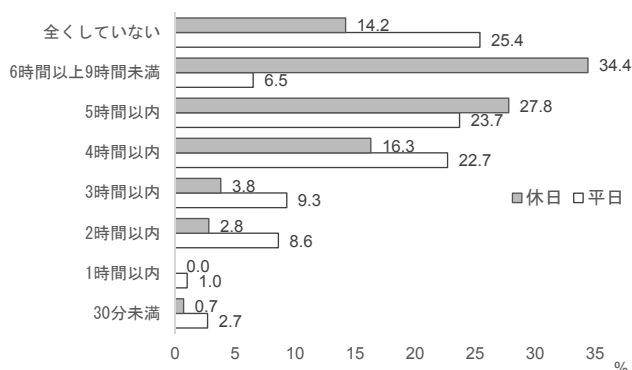


図7 アルバイトの就労時間(n=291)

12) 授業以外で自分が実行していること (複数回答) (n=368)

講義のみで特に実行していないが180人と最も多く、次いで資格取得や受験に備えた学修が56人、教養や社会問題に関する読書が41人、自分の興味あるテーマの探求が34人であった (図8)。

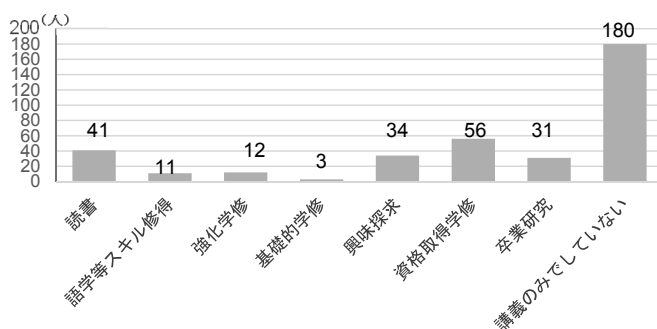


図8 授業以外に自分で実行していること(複数回答)

4. 現在の自己学修は十分であるかの認識 (n=380)

不十分であるが164人 (43.2%) と最も多く、次いで少し不十分であるが154人 (40.5%)、ある程度十分である

が57人 (15.0%)、十分であるが5人 (1.3%) であった。

6. 授業に関する質問や相談への対処 (n=375)

時々するが170人 (45.3%) と最も多く、次いであまりしないが136人 (36.3%)、全くしないが46人 (12.3%)、いつもするが23人 (6.1%) であった。

7. 対処法 (複数回答) (n=239)

友人に相談するが74人と最も多く、次いで先輩や友人に教わるが34人、授業後に教員に直接相談や質問する、参考書やインターネットで調べるが各々29人、振り返りシートや出席カードなどに記入しているが25人であった (図9)。

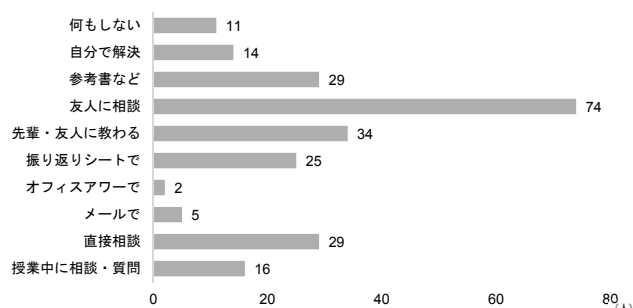


図9 相談や質問時の対処方法 (複数回答)

8. 質問頻度 (n=267)

月に1~2回が110人 (41.2%) と最も多く、次いで数ヶ月に1~2回が98人 (36.7%) であった。

9. 今後、自己学修に必要なと考えること (複数回答) (n=330)

ラーニングコモンズを設置するが64人と最も多く、次いでワークブックなどの自己学習書の活用が57人、グループ学修室の設置が55人、個別指導をしてくれる教員配置が49人であった (図10)。

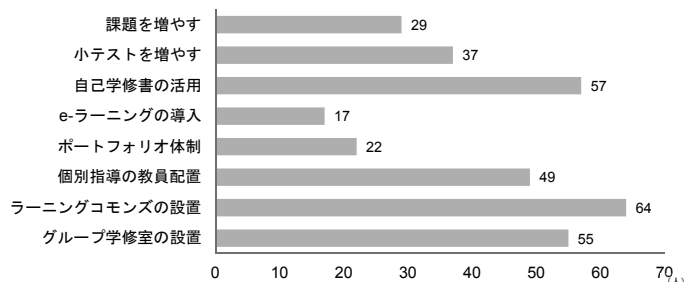


図10 今後の自己学修に必要なこと(複数回答)(n=330)

III. 課題と今後の学修支援のあり方

文部科学省は、学士課程教育の質を保证するため、学生の学修時間、とくに予習・復習に関わる主体的な学修時間を確保することを大学に推奨している (文部科学省2012)。

本学においても、学生の単位未修得者が年々増加傾向にあることを鑑み、何らかの対応が求められることから、まずは学修実態調査を実施することから取り組むこととした。

本学の全学生の傾向として、以下の点を課題と考えることができる。

1. 授業時間外における予習・復習は、課題が出たときのみ実施している。

2. 平日に授業時間外の学内滞在時間では、ほとんどの学生は授業終了後に帰宅あるいはアルバイトのために帰宅している。

休日の図書館利用による学内滞在時間では、全く利用していない、または30分未満である。しかし、調査時期が11月であったためか国家試験に係る学修を行うために利用している学生もいる。

3. 平日の予習時間では、30分未満～1時間以内の予習をしている学生もいるが、ほとんどしていない。

休日の予習時間は、30分未満が多いが1～2時間の時間を割いている。

4. 平日と休日の復習時間は、30分未満が多いが、1～3時間の時間を割いている学生もいる。これは、授業前の小テストのため、課題レポート作成に割かれているものと考ええる。

5. 平日と休日の実習前の学修時間は、2～3時間の時間を割いている。平日と休日の実習中の学修時間は、3～5時間の時間を割いている。これは、実習と伴うための事前学修に割かれているものと考ええる。

6. 平日のアルバイト時間は5時間以内、休日では6時間以上9時間以内が多い。

7. 自己学修で実行していることは、講義のみで何もしていない。しかし、今の自己学修では不十分であることは認識している。

8. 質問や相談は時々するが、その対処は友人に相談したり、教えてもらったりしている。

9. 今後の自己学修に必要なことは、自己学習書の活用、小テストを増やす、個別指導のための教員の配置、ラーニングコモンズ（自己学修ができる環境整備）の設置としている。

本学は、専門職を養成することを目指しており、学生においても単に資格取得のため、単位や卒業のためだけの学修を行っているものではないと考える。学生の主体的な学修態度は、自らの成長のために授業に集中すること、授業で出される課題に主体的に取り組もうとすることである。畑野は、主体的な学修態度を高めるためには、内発的動機づけを高めることが最も望ましいとしている²⁾。そのため、学生に授業の合間や授業後の振り返りシートなどを書かせることも有効と思われる。すでに取り組まれている

ものであるが、ただ単純に感想などを書かせるのではなく、学生が学習した内容を整理し、構造化できるような問いを設定することが必要となる。さらに、授業外の課題として授業内容を振り返らせる機会として課題レポートを出すことなども方法の一つであると思われる。そして、提出された課題レポートや自己学修書などを丁寧に添削し、必要に応じて個別指導につないでいくことが求められる。学生は小テストを増やすことなども自己学修には必要なこととしていることから各教員の授業の工夫が必要となる。

さらに、自己学修できる環境が整備、充実されるように全学的に取り組んでいくことが必要である。

文献

- 1) 文部科学省.大学設置基準で定められている予習・復習時間について (2016/08/25) :
<http://www.ohshiro.tuis.ac.jp/~ohshiro/univlaw.html>
- 2) 畑野快：大学生の自律的な学習動機付けの検討 - 学習・キャリアに関わる変数との関連から - .日本青年心理学研究,24,137 - 148,2013.